

報道機関各位

沖縄県立博物館・美術館管理事務所

# 琉球王国 450年の想いが、今、あなたに届く。 復帰50年展「琉球—美とその背景—」 10/14(金)～12/4(日)開催

沖縄県立博物館・美術館（おきみゅー）は、2022年10月14日（金）から復帰50年展「琉球—美とその背景—」を開催いたします。（会期12月4日まで）

本土復帰から50年—。様々な施策や県民の努力により、沖縄は大きく成長を遂げ、今まさに新たな歴史を歩んでいます。

小さな島の集まりであるこの地域は、古くから海を通じて様々な国と交流し、琉球王国として独自の文化を発展させてきました。その息吹は、現代に生きる私たちの生活や産業に溶け込み、様々な場面で目にすることができます。

本展では、琉球王国時代の資料を通して歴史的背景や文化的背景も含めて、琉球の美の成り立ちを伝えることで、私たちのアイデンティティである「琉球」を再考する展示を行います。

県内初公開の「木筒 伊藍嶋竹口・掩美嶋（国指定重要文化財）」や「黒地桐鳳凰文様描絵芭蕉衣装」などを含む185件を紹介します。

## 《展示構成》

### ■第1章 万国津梁—アジアの架け橋—

琉球列島の人々は、古くから日本や大陸側の人々と緩やかなつながりを持っていました。14～15世紀には進貢貿易を軸に、アジアの架け橋として繁栄した一方、外来文化を導入し、特産品を生み出していました。

この章では、琉球の美を生み出した歴史的背景を紹介します。



国指定重要文化財  
木筒 伊藍嶋竹口・掩美嶋  
（九州歴史資料館所蔵）

### ■第2章 琉球の美

琉球王国では、国内が安定し始めると国際交流や豊かな自然をもとに、多くの美術工芸品が生み出されました。それらの輝きは、国内外の多くの人々を魅了していきます。

この章では、琉球で育まれた美の数々を紹介します。



国重要指定文化財  
朱漆花鳥密陀絵沈金御供飯 （徳川美術館所蔵）

### ■第3章 しまの暮らしと祈り

琉球王国の人々は、豊かな自然がもたらす恩恵を享受し祈りをささげつつ、その土地に根ざした多様な文化・風俗を育んできました。

この章では、しまの人々の暮らしと祈りを通して、琉球王国を下支えてきた人々の美意識や世界観を探ります。



ノロの図（東京国立博物館所蔵）

#### 【開催概要】

展覧会名：復帰 50 年展「琉球—美とその背景—」

会 期：2022 年 10 月 14 日(金)～12 月 4 日(日)

会 場：博物館企画展示室、特別展示室 1・2

主 催：沖縄県立博物館・美術館

観 覧 料：一般 1,400 円 (1,200 円)、高校・大学生 700 円  
(560 円)、小・中学生 500 円 (400 円)

※ ( ) 内は、前売料金・20 名以上の団体料金

開館時間：9：00～18：00 (金・土は 20：00) ※最終入場は閉館 30 分前まで。

休 館 日：毎週月曜日

※広報用画像をご希望の方は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

#### <お問い合わせ先>

沖縄県立博物館・美術館

指定管理者 (一財) 沖縄美ら島財団

企画班 広報営業担当 金城正仁・渡邊孝仁

TEL 098-941-1232 / FAX 098-941-2392

MAIL [ms-kinjo@okichura.jp](mailto:ms-kinjo@okichura.jp) / [t-watanabe@okichura.jp](mailto:t-watanabe@okichura.jp)